

# こじか荘だより

ホ～ホケキョウ♪

## 春

こじか荘も花盛り♪

ウキウキ

ワクワク



### 新年度に向けて

施設長 平林礼子



この冬は殊更寒さが厳しかったと思います。社会の状況も厳しさを増し、何とか明るさを見出したいと躍起になっている状況の中に誰しも居るのではないのでしょうか。やと待ちに待った春を迎えてしみじみと喜びを感じています。こじか荘開設二八年目を迎えて、この地にある施設の使命を実感しつつ、現在の各事業所の課題をじっくりと見つめ直している所です。

母体施設の特別養護老人ホームでは重点目標の一つに「認知症ケア」のレベルアップを挙げています。長年に渡って取り組んできたことですが、これまでの実績を基に特養をいう形態の中での生活の在り方、サービスの在り方、職員の在り方を再度突き詰めていければと思います。特養の生活が安心・安全で豊かであるためには職員の人間性・人間力が決め手であることは自明の理であり、その力を発揮するためにはどう知恵を出し合って現状から一歩前に進められるのかということ。我々の職員は優しくて粘り強いと誇りを持っていますが、まだまだご利用者から学んでいかなければいけません。認知症の方々は今以上に笑顔で日々を送っていただけるようにケアを充実させる事は、すなわち全体をレベルアップさせる事であり、専門性ある施設として今、私たちに求められている事だと思えます。その為に職員が一丸となり成長していきたい、切磋琢磨して有用な人材になりたいと思っております。

今年度も宜しくご指導ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い致します。



# 日常のひとコマ



東の間の春の日差しに誘われて!



凛々しい鬼が出来ました!



七草粥の美味しいレシピ!



力作揃いのねんど細工☆

## 特養



「さあ、さあ、皆で鬼退治!」

## 通所

息をこらしてボールゲーム



歯科衛生士さんのお話

お口をぷ〜つと、口腔体操



### 「認知症介護の現場から」

#### その四



認知症ケア専門士 介護部長 岸本裕子

今回でこのシリーズも終わりです。私と認知症との出会いは今から十五年前です。その後、「認知症ケア専門士」認知症介護アドバイザーの資格や認定をいただき、今回のように、認知症についてのお話をさせていただく機会も多くなってきました。しかし、学んだ知識や、テキスト通りに行かないのが介護の現場です。「食べていない。」と怒る方、「帰ります。」と玄関へ向かう方、「ウジ虫がいる。」と怯える方、見えない誰かと会話する方、「お金が無くなった。」と被害妄想、入浴拒否、また、歩行ができないのに、一人で歩こうとされる方、それぞれが様々な症状を、時間、場所関係なく発症されます。「じか荘では、決して、否定しない。「叱らない。」と、受け止める。」そして、「優しい対応をする。」という事を認知症ケアの基本として取り組んできました。しかし、限られた職員配置と時間の中で、対応困難な場合は、職員の業務にやむを得ず同行していただく場合もあります。「この対応は、拘束ではないか。」という状態で続くのだから。「先の見えない介護にシレンマやストレスを感じながら、それでも、笑顔で優しい対応に心がけています。」

「じか荘は、28年目、50床と、古くて、小さな施設です。しかし、その中には、優しく温かい風が吹いています。」

「今からの人に伝えたいことは、首を左右に振って自分の進む先を探っておられる方の、視線の先の「不安」に想いを馳せて欲しい。空から降ってくる雨粒が良く見える場所に佇み、空を見上げる方の「感性」を大切にしたい。ご利用者一人ひとりを今以上に、心で感じて欲しいと思います。」

「認知症ケアは難しい、でも、簡単かもしれない。「相手を不快な思いにさせない。」「い」がぶれなければ。ありがとう」を言っていました。」

# 気になりませんか? 認知症のこと...



通所介護事業所 介護士 塚本祥恵

### 認知症ケア「私の想い」

介護の仕事について沢山の「利用者の方、そのご家族の方」と出会ってきました。そして、「いつも」「これでいいの?」「と考えるながら介護の現場に立っています。認知症の方の不安な症状に出会った時、その気持ちを察して、その方の、今おられる状況を受け止めるというのは簡単なことではなく、どのような言葉掛けや対応で安心していただけるのか、いつも試行錯誤です。しかし、例えば、「帰ろうと思う」「トイレに行きたい」などの言葉の奥にある、「何か落ち着かない」「不安な気持ち」を察し、気持ちが和らぐような対応すること、落ち着いてもらったり、安心した顔を見せられたりすると何だかとても嬉しくなります。」

また、「ご家族から、「元気があった頃は、とても優しいお父さんだった。」「お母さんは、歌が好きで、朗らかだったんですよ。」「などの話を聞くと、特に今でも、そのような姿を見られないだろうか」と思い、意識して関わる内に、そのような姿や会話が垣間見えた時にはとても嬉しく思います。」

私は、「ご利用者の不安な気持ちが少しでも和らぎ、「あのひと」とおると、何か落ち着くなあ。」と感じてもらえるような、また、「もし認知症が出て、あの人がおれば、何か大丈夫かなあ」と思ってもらえるような関わりを、これからも続けていきたいと思っています。」



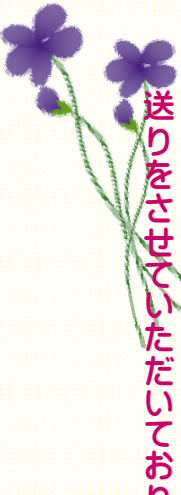
# ターミナルケアへの取り組み

## 旅立ちへのお手伝い、(看護課だより) その4

当荘では、身体機能の低下、あるいは認知障害を持たれた高齢者の場として、それぞれの残存機能を出来るだけ維持していただきたく、毎日の生活支援をさせていただきます。

しかし、ご利用者個々に心身機能には差があり、月日を重ねる毎に、生命維持機能の低下が発生してきます。いわゆるターミナル期です。日頃より、主治医・看護・介護・栄養課と連携し、ご利用者ご家族の意に添えるように、ケアプランに基づいて、介護をさせていただいていますが、医師よりターミナル診断が出たら、日ごろのケアをより慎重に行い、寂しい思いをしていただかないように、出来る限り寄り添い、人生のゴールまでをより良く生きていただくための支援を行います。

また、ご家族との関係を更に深くもち、在宅時での、あるいは、施設での生活の中で印象に残る思い出を語り合うように努めています。お別れの時には、生活を共にされた他のご利用者や職員が一同に会い、お別れ会を持ち、故人に今までの感謝の意を表し、みなさんで見送りをさせていただいております。



准看護師 森久佐代子

## 新しい仲間の紹介

生活相談員  
成清耕三



定年退職後、スローライフを楽しんでいましたが、またこじか荘で働かせていただくことになりました。よろしくお願ひします。

事務員  
松田美奈子



ともえ会本部から異動して来ました。十数年前にこじか荘で務めていました。久しぶりにこじか荘でお世話になります。よろしくお願ひします。

調理員  
古胡美貴



四月一日から、厨房で調理員として働かせていただくことになりました。初めての職種ですが、頑張りますので、宜しくお願ひします。

## 新事務部長紹介

事務部長  
糸原征司



四月から事務部長として働かせていただくことになりました。ご利用者ご家族・地域の皆様の声をしっかり受け止め、がんばります。

## ボランティア

- 一月 十六日 鮫谷美紀枝様(散髪)
- 二月 二十八日 やすらぎ様(シーツ交換)
- 三月 十四日 鮫谷美紀枝様(散髪)



ボランティア係り 介護士 熊谷裕子

あひがひの会

## ワックス掛けについて

五月十七日(木)は、こじか荘ワックス掛けを行います。業者の出入りもありますので、面会をお控えいただければと思います。

## 面会制限へのお礼

一月十日、二月十一日において、こじか荘でインフルエンザが発生し、面会制限を行いました。大変迷惑をお掛けしました。ご家族や関係者の皆様には、ご理解、ご協力をいただきましてありがとうございます。

## 退職・施設異動のお知らせ

- 定年退職者 古栗慎(事務長) 島原真理子(事務員)
- 施設異動者 山崎訓子(調理員) (ともえ会へ)

皆様には、大変お世話になりました。

## 編集後記

「虫たちの 宿の代わりが 菰の中  
まだまだ寒さが 身に凍みる初春」  
こじか新聞は、読んでいただく皆様に、こじか荘の魅力・できごとなどお届けしたいと思ひます。今年度も宜しくお願ひ致します。



広報委員 丸田竜士